

熊本県文化財調査報告 第222集

東鶴遺跡

県道二重峠菊池線単県道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2004.3

熊本県教育委員会

東鶴遺跡

熊本県菊池市下河原字東鶴所在の遺跡



2004.3

熊本県教育委員会

序 文

熊本県教育委員会では、県道二重峠菊池線単県道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、熊本県菊池市下河原字東鶴に所在します東鶴遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、古墳時代の住居跡を中心として、縄文時代の遺物を発見しました。特に、古墳時代の住居跡からまとまって出土した土師器は、古墳時代前期の一括遺物であり、年代を示してくれる基準として重要な遺物であります。

この報告書が県民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財の関心と理解を深めていただく一助となれば、喜びに堪えません。

なお、調査の実施に御理解と御協力をいただいた地元の方々、関係機関、並びに御指導・御助言をいただいた先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成16年3月31日

熊本県教育長 田 中 力 男

例　　言

1. 本書は、県道二重峠菊池線單県道路改良事業に伴い実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2. 発掘調査は、県土本部から依頼を受け、熊本県教育委員会が実施した。
3. 遺跡の発掘調査は、平成10年度に行った。
4. 現地調査での実測は、山城敏昭・矢野裕介・安達武敏・隈田章代・成瀬祐二・笠健が行い、写真撮影は、山城・笠が行った。
5. 測量図、遺物取上作業の一部は、（株）埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
6. 遺物の実測は、西住欣一郎・河原京子・杉井涼子・梅田亜耶・上田まゆみ・川井田久子・貞苅美津子・園田智子・平川早苗が行い、製図は西住・河原が行った。
7. 石材の鑑定は、馬場正弘が行った。
8. 遺物写真については、図版9のみ、熊本県立装飾古墳館企画展「肥後の至宝展Ⅰ」（平成15年1月）の図録より許可を得て転載している。他の遺物の撮影は河原が行った。
9. 本書の執筆は、第1章を帆足俊文、第2章を矢野、第3章を西住・河原、第4章を西住が行った。
10. 本書の編集は、熊本県文化課が行い、西住が担当し、河原が補助した。
11. 遺物の整理・保管は、熊本県文化財資料室で行っている。

凡　　例

1. 調査区座標数値は、日本測地系による座標数値である。
2. グリッドには、任意でアルファベットと数字を割り振っている。
3. 遺構及び遺構配置図の方位は、座標軸を基準とした北を指している。
4. 本書に掲載している遺構・遺物の縮尺は以下のとおりである。

竪穴住居址…60分の1・40分の1	土坑…40分の1・30分の1
溝…60分の1	遺構配置図…500分の1
土器（古墳時代）…4分の1・5分の1	（縄文時代）…3分の1
石器（古墳時代）…3分の1・5分の1	（縄文時代）…3分の2・3分の1
5. 出土遺物の番号は、古墳時代に関しては出土した遺構ごとに通して付け、縄文時代は各種別ごとに通して付けた。
6. 遺構図内の番号は、出土遺物実測図の番号に対応する。
7. 石器の図面については、擦り痕にスクリーントーンを貼り、欠損部は塗りつぶした。
8. 遺物写真的番号は、挿図番号一実測図番号で表示している。

本文目次

序文	
例言	
凡例	
本文目次	
挿図目次	
写真目次	
表目次	
第1章 調査経緯	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査組織	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	3
第3章 調査成果	6
1. 発掘調査概要	6
(1) 検出遺構と年代	6
(2) 検出包含層と年代	6
2. 古墳時代	8
3. 繩文時代	21
(1) 包含層出土土器	21
(2) 包含層出土石器	21
第4章 総括	27
遺構・遺物観察表	28
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 東鶴遺跡周辺遺跡分布図	4
第2図 東鶴遺跡遺構配置図	7
第3図 1号住居址遺構実測図	9
第4図 1号住居址出土遺物実測図	10
第5図 2号住居址遺構及び遺物出土状況実測図	11
第6図 2号住居址出土遺物実測図	12
第7図 3号住居址遺構実測図	13
第8図 4号住居址遺構実測図	14
第9図 3号住居址出土遺物実測図	15
第10図 4号住居址出土遺物実測図	15
第11図 4号住居址出土石錘実測図	16
第12図 1・2号土坑遺構実測図	17
第13図 3~5号土坑遺構実測図	18
第14図 6~10号土坑遺構実測図	19
第15図 1号溝遺構実測図	20
第16図 包含層出土土器実測図1	22
第17図 包含層出土土器実測図2	23
第18図 包含層出土土器実測図3	24
第19図 包含層出土石器実測図1	25
第20図 包含層出土石器実測図2	26
第21図 周辺地形図	27

写 真 目 次

- 図版1 東鶴遺跡遠景
- 図版2 東鶴遺跡全景
- 図版3 1号住居址（北から）
- 図版4 2号住居址（北から）
- 図版5 3号住居址（西から）
- 図版6 4号住居址（東から）
- 図版7 4号住居址遺物出土状況（北から）
- 図版8 3・4・5号土坑（南西から）
- 図版9 1・3・4号住居址出土遺物
- 図版10 2号住居址出土遺物
- 図版11 1・4号住居址出土遺物
- 図版12 包含層出土遺物（掲載土器）
- 図版13 包含層出土遺物（未掲載土器）
- 図版14 包含層出土遺物（掲載石器）

表 目 次

第1表 東鶴遺跡調査行程表.....	2
第2表 東鶴遺跡周辺遺跡一覧表.....	5
第3表 遺構觀察表（古墳時代）.....	28
第4表 土器觀察表.....	28
第5表 石器觀察表.....	29

第1章 調査経緯

1. 調査に至る経緯

熊本県菊地市下河原字東鶴において、熊本県菊池土木事務所（以下、「菊池土木事務所」。）により、県道二重峠菊池線單県道路改良事業が計画された。この事業の実施に先立ち、菊池土木事務所から、熊本県文化課（以下、「文化課」。）に対して、埋蔵文化財の所在の有無に関する照会があった。

文化課では、菊池土木事務所より提出された路線計画図面と、それをもとにした現地踏査により、当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「東鶴遺跡」にあたることを確認した。その後、菊池土木事務所に対しては、計画路線内における遺構の状態を確認するために、埋蔵文化財確認調査が必要な旨を通知した。

この通知をうけて、菊池土木事務所から、文化課に対して、計画路線内における埋蔵文化財確認調査の依頼があった。文化課では、この依頼に基づき、平成7年12月（担当：高木正文）と、平成9年10月（担当：三木ますみ・中川裕二）の2次に分けて、埋蔵文化財確認調査を実施した。

その結果については、第1次調査及び第2次調査において、計画路線内で、遺構及び遺物が確認され、その拡張についても、確認することができた。そのため、文化課では、それぞれ、各埋蔵文化財確認調査調査終了後に、菊池土木事務所長あてに、埋蔵文化財確認調査の結果を通知した（第1次調査結果：平成7年12月8日付け教文第1266号、第2次調査結果：平成9年11月5日付け教文第382号）。その内容については、第1次及び第2次調査において、遺構及び遺物が確認された範囲があること。さらに、菊池土木事務所が、その範囲内において、計画どおり、事業計画を進める場合には、事前に、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査が必要であること。さらに、事業計画及び埋蔵文化財に関する今後の取り扱いについて、文化課と協議をしてほしいこと、の3点であった。

その後、菊池土木事務所と文化課において、協議を実施した。菊池土木事務所より、県道の路線変更については、不可能であり、事業の実施についても、早急に着手する必要があることが要望された。そのため、文化課では、計画路線内において、遺構及び遺物が確認されている範囲内について、菊池土木事務所の協力のもと、工事着手前に記録保存のための発掘調査を実施することとした。発掘調査の対象面積は、1,700㎡である。

2. 調査組織

発掘調査

調査主体	熊本県教育委員会
調査責任者	豊田貞二（文化課課長、平成10年度） 川上康治（文化課課長補佐、平成10年度）
調査統括	鳥津義昭（文化課課長補佐、平成10年度）
調査担当	山城敏昭（文化財保護主事、平成10年度） 矢野裕介（学芸員、平成10年度） 帆足俊文（学芸員、平成10年度） 安達武敏（嘱託、平成10年度） 笠 健（白水村より出向、平成10年度）

整理・報告書作成

整理主体 熊本県教育委員会

整理責任者 阪井大文（文化課課長、平成13年度）

成瀬烈大（文化課課長、平成15年度）

小田信也（文化課課長補佐、平成13年度）

吉田 恵（文化課課長補佐、平成15年度）

鳥津義昭（文化課課長補佐、平成13～15年度）

整理総括 木崎康弘（文化財調査第二係長、平成13年度）

西住欣一郎（文化財調査第二係長、平成15年度）

整理担当 木崎康弘（文化財調査第二係長、平成13年度）

西住欣一郎（文化財調査第二係長、平成15年度）

河原京子（嘱託、平成15年度）

調査・整理協力者

家根祥多（立命館大学文学部） 阿南 亨（菊地市教育委員会）

中原幹彦（植木町教育委員会） 雨宮瑞生（南九州襍文研究会）

山城敏昭（熊本県立大津養護学校） 菊地市河原地区の皆さん

3 調査の経緯

発掘調査は、平成10年11月23日から、平成11年3月31日まで実施した。

調査の大まかな行程については、第1表のとおりである。

月	1998年 11月	12月	1999年 1月	2月	3月	2001年～2002年 10月～3月
調 査 内 容	<p>— 表土除去作業</p> <p>— 環境整備・表面清掃</p> <p>———— 遺構調査・包含層調査 —————</p> <p>• 10日調査区拡幅決定</p> <p>— 拡幅部重機堀削・調査 —</p>					整 理 作 業
備 考	<ul style="list-style-type: none"> • 23日 調査開始 • 調査担当者交替 • 26日～6年末・年始休み • 28日河原小5年体験発掘 • 9日河原小3年見学 31日調査終了・ 					※2003年度報告書刊行

第1表 東鶴遺跡調査行程表

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

東鶴遺跡が所在する菊池川上流域は、河川の堆積作用により形成された肥沃な土壌を持つ菊池平野を中央に、南北には広い平坦面を持つ標高60~100mの台・花房台地が急峻な崖をもって望み、東には浸食作用により形成された狭小な谷が幾重にも重なる山麓が広がる。その菊池平野の東部山麓、菊池川の支流である河原川流域に遺跡は所在する。鞍岳山麓の西に端を発する河原川流域は狭小な浸食谷を形成しており、当該遺跡は菊池川本流との合流地点から約1.5km上流、南北を低位な丘陵に挟まれた河原川右岸の段丘上に立地する。

当該調査においては縄文時代の遺物包含層と古墳時代の集落跡が検出されており、以下に、菊池川上流域における縄文時代及び古墳時代の周辺遺跡について概観する。なお、当地域には、弥生時代の環濠集落である台遺跡（七城町）、古代山城の鞠智城跡（菊鹿町及び菊池市）といった各時代を代表する諸遺跡なども所在することを付記しておく。

【縄文時代】

菊池平野の東部山麓は、ワクド石遺跡、無田原遺跡（旭志村）など鞍岳西麓に拡がる遺跡群に続く縄文時代遺跡の分布地として位置づけられる。特に、縄文早期からの遺跡が数多く点在する。代表的な遺跡としては、支流竹牧川の湧水点の丘陵中腹に位置する伊野遺跡がある。縄文早期の押型文土器から弥生初頭の夜白式土器まで縄文時代各期を通じての土器の出土が認められており、地域の模様の様相を示す。このほか、河原川上流域には渡打遺跡、平山遺跡などの縄文時代早期~後・晚期の遺跡が点在し、東鶴遺跡との関連が指摘される。

後期以降になると、比較的大規模な集落が菊池平野の段丘上や台や花房の台地上に形成される。花房台地上の三万田東原遺跡（泗水町）、菊池平野の河岸段丘上の天城遺跡などがこれに該当する。両遺跡とも後晩期の土器片が多数出土しており、縄文時代後・晚期の土器の標識遺跡【三万田式・天城式】ともなっている。後期の住居跡や土偶、紡錘車などの遺物の出土は両遺跡に共通するが、天城遺跡では、住居跡2基のほか、北500mにわたり溝で区画し河原石を敷いた墓地の存在が特筆される。16基以上の甕棺のほか、西日本では珍しい方形プランの「石囲い墓」が検出されている。

【古墳時代】

菊池川流域は、全国でも有数の古墳集積地として位置づけられる。その上流に位置する菊池平野周辺は、木柑子や深川など一部に舟形石棺等が見つかっているほか、横穴式石室を内部主体とする後期以降の古墳が多く残る。また、当地域は木柑子フタツカ古墳の石人に代表されるように「石人・石馬」いわゆる石製表飾の分布圏としても知られ、岩戸山古墳（福岡県八女市）のある八女地域との関連性が指摘されている。

木柑子フタツカ古墳は花房台地の北縁に位置する残存埴長約43mの前方後円墳である。墳形、規模等から6世紀前半代の地域の首長墓として位置づけられており、平成10年度の周塙調査における銀象眼を施す大刀鍔の出土など、出土遺物からも他を卓越する。南くびれ部の短甲石人は古くから知られるが、同調査で石製蓋も出土した。西方約300mの大塚古墳の周塙からも4体の石人が出土しており、この木柑子周塙が石製表飾の文化圏として位置づけられる。菊池平野の西北の丘陵上には、装飾古墳の袈裟尾高塚古墳がある。彩色の装飾を施す古墳としては、菊池川流域では最東端となる。全長24.5mの6世紀後半の円墳で、石屋形奥壁に「鞍」の線刻、玄門・側壁に赤、青、白の連続三角文、玄門の「石」に「鞍」のレリーフなど、バリエイションに富む構成である。7世紀代には、平野の河岸段丘上の赤星ヤンボシ塚古墳、菊池川左岸の丘陵上の出田鬼石古墳などの巨石墳が点在する。このほか、菊池平野に面した東部の丘陵地、台地、花房台地の阿蘇溶結凝灰岩の崖面には、数多くの横穴墓が造営される。比較的軟質で、造墓に適した環境にあるからである。木柑子、出田、亘、森北、瀬戸口地域の諸横穴群がこれに該当する。代表的な横穴群としては、菜地百穴、堂坂横穴群、瀬戸口横穴群（七城町）などがある。

当地域の集落については、河岸段丘や台地上に遺物包蔵地が認められるものの、住居跡は東鶴遺跡が初例となる。

2000m

第1図 蓬鶴周辺道路分布図 (S:1/40000)



通番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
210-167 東鶴	下河原	神文・古墳	集落			
210-037 長田	(風座)	古墳	包蔵地	土師器		
210-038 長田	水町	古墳	包蔵地	土師器		
210-039 木相子幡穴群	木相子・下河原	古墳	古墳	古墳	古墳	西山東方南側、數十基。普通型・風化
210-040 木相子幡子ノカ古墳	木相子・下河原	古墳	古墳	古墳	古墳	西山東方南側、数右基定石人立つ(廢地にある)
210-041 木原	長田 (過称大塚)	古墳	古墳地	古墳	古墳	古墳地 古生後神土器・土師器
210-042 大原古墳	長田 (過称大塚)	古墳	古墳	古墳	古墳	前方後円形、後円部金比羅社建つ
210-043 木相子紀形石棺	木相子	古墳	古墳	古墳	古墳	市 緑丘墓出土品に露出
210-044 乗道田平横穴	木相子・東浦田平	古墳	古墳	古墳	古墳	
210-055 墓山古墳 (参考地)	鎌原 (城山)	古墳	古墳	古墳	古墳	円墳状、大口圓頭
210-063 神奈古墳	野間口・神奈	古墳	古墳	古墳	古墳	石室一部残る。巨大な葺半石使用
210-070 西村上	美風尾・西村上	神文	集落跡			
210-075 深川	深川 (調訪原)	神文～古墳	古墳地	古墳	古墳	牛糞文・御領式・野辺式・土師器出土
210-077 深川古墳	深川 (糸木)	古墳	古墳	古墳	古墳	深川角形石棺、深川の石棺
210-078 井原	赤星 (宮ノ前)	古墳	古墳地	古墳	古墳	土師器
210-079 赤星ヤンボシ原古墳	赤星 (前畠)	古墳	古墳	古墳	古墳	市 今壇丘なし、楕円桿式、同所に馬糞塙石碑復元
210-080 天城神社古墳	赤星 (鏡原)	古墳	古墳	古墳	古墳	円墳
210-081 天城	赤星 (鏡原)	神文・伴生	古墳地	古墳	古墳	神文・伴生土器
210-082 天城古墳	赤星 (油沼)	神文	古墳地	古墳	古墳	神文土器
210-083 菊の城跡	北宮 城ノ坂	弥生～中世	城	城	城	別名菊之城跡。菊池十八外城の1つ。弥生・土師も包含
210-092 赤星福土・水屋	赤星 (福土・水屋)	神文～古代	集落	古墳地	古墳	
210-094 医者どん坂	出田 (西郷ほか)	神文・伴生	古墳地	古墳	古墳	神文・伴生を含む
210-095 乗坂古墳	出田 (東屋敷)	古墳	古墳地	古墳	古墳	市 数基。1群の須恵器をだす。22基
210-096 乗石古墳	出田 (東屋敷)	古墳	古墳	古墳	古墳	市
210-098 亂の古墳	出田 (甲)	古墳	古墳	古墳	古墳	石棺あり。土師器多數出土
210-099 古城跡跡古墳	出田 (東屋敷)	古墳	古墳	古墳	古墳	椭円石室
210-100 万太郎A	赤星 (万太郎)	神文	古墳地	古墳	古墳	
210-101 万太郎B	赤星 (万太郎)	神文	古墳地	古墳	古墳	
210-102 鳩山	赤星 (萬太郎)	神文	古墳地	古墳	古墳	
210-107 篠崎百穴	豆 (篠崎)	古墳	古墳	古墳	古墳	市 北崖に數基。普通型も考えられる
210-111 本麻古場	木麻 (山下)	古墳	古墳	古墳	古墳	
210-114 中尾	木麻 (中尾)	弥生～古墳	古墳	古墳	古墳	市 伴生・筒式石棺
210-115 稲荷山古墳参考地	下河原 (松島)	弥生～古墳	古墳地	古墳	古墳	円墳状。封土・稻荷祠あり。弥生土器あり。
210-119 犬飼穴	見	古墳	古墳	古墳	古墳	直刀・帶・鏡頭
210-121 マコミノ穴	今	古墳	古墳	古墳	古墳	
210-122 紗見尾後田横穴群A	森北 (後田)	古墳	古墳	古墳	古墳	須恵器一括出土
210-123 紗見尾後田横穴群B	森北 (後田)	古墳	古墳	古墳	古墳	小円墳・石棺ありと土俗いう。勾玉出土
210-125 紗見尾後田横穴群B	森北 (後田)	古墳	古墳	古墳	古墳	須恵器1群出土
210-126 犬トリ横穴群	森北 (鶯山)	古墳	古墳	古墳	古墳	椭穴4基
210-154 木相子高塙古墳	木相子	古墳	古墳	古墳	古墳	
210-155 西ノ平	木相子	古墳	古墳	古墳	古墳	
210-157 西原A	木相子	古墳	古墳	古墳	古墳	
210-160 名称不明	木相子	古墳	古墳	古墳	古墳	
210-164 紗見尾後田横穴群	森北	古墳	古墳	古墳	古墳	椭穴群2段2.2坪以上の分布
210-165 紗見尾山古墳	森北	古墳	古墳	古墳	古墳	椭穴群2段5基以上の分布
210-166 紗見尾馬渡横穴群	森北	古墳	古墳	古墳	古墳	椭穴群5基以上の分布、再利用あり
401-003 合	台 (董)	古墳	古墳地	古墳	古墳	野辺式土器を含むする
401-004 渥戸口横穴群	渥戸口 (下原)	古墳	古墳	古墳	古墳	町 検穴10数基回り。軽石充满するあり
401-006 水次一本松	水次 (一本松)	神文	古墳地	古墳	古墳	神文後施期伯原頭・御領式古墳・勾玉
401-009 水次	水次 (久保ノ上)	古墳	古墳地	古墳	古墳	野辺式・土器・土師・須恵・箱・舟形石棺(十達寺石棺)
401-010 山崎古墳	山崎 (前原)	古墳	古墳	古墳	古墳	町 箱・舟形石棺・束帯石棺・野辺式土器
401-011 山崎古墳	山崎 (前原)	古墳	古墳	古墳	古墳	御領式土器・石器類合含
401-015 一連寺古墳	水次 (久保ノ上)	古墳	古墳	古墳	古墳	束帯石棺
401-016 粟石越後横穴群	粟石 (越後)	古墳	古墳	古墳	古墳	
401-017 羽根山	水次 (西ノ平)	古墳	古墳	古墳	古墳	
401-019 田田	田田 (西ノ平)	古墳	古墳	古墳	古墳	
401-041 亀尾原	亀尾原 (西上原)	神文	古墳	古墳	古墳	西式・御領式土器・石器
401-043 亞羅チャウ塙古墳	亀尾原 (羽瀬)	古墳	古墳	古墳	古墳	小円墳・丘に円錐なり
401-044 亞羅横穴群	亀尾原 (岩瀬)	古墳	古墳	古墳	古墳	椭穴数基。須恵器一括
401-050 ハヤマ塙古墳	水次 (羽瀬)	古墳	古墳	古墳	古墳	
401-051 達川	達川 (糸木)	神文～中世	古墳地	古墳	古墳	
406-027 三田東原	亀尾原 (東原)	神文	古墳地	古墳	古墳	須恵器・注口土器・土偶・石器・鉢玉
406-034 今寺横穴群	笠原 (野町)	古墳	古墳	古墳	古墳	須穴群
406-051 硫町横穴群	住吉 (硫町)	古墳	古墳	古墳	古墳	須原器
406-053 伊賀原古墳	住吉 (硫原)	古墳	古墳	古墳	古墳	
406-054 傷後塚古墳	住吉 (傷後塚)	古墳	古墳	古墳	古墳	
406-055 亀原古墳	住吉 (西古原)	古墳	古墳	古墳	古墳	
406-056 城山	住吉 (城山)	神文～古代	古墳地	古墳	古墳	鹿骨器・須文・御領式・青磁・西式・野辺式
406-058 佐吉日吉神社	住吉 (北小路)	古墳～中世	古墳地	古墳	古墳	須文器・土師器・漁石釜・円面鏡
406-066 平町横穴群	住吉 (上鶴)	古墳	古墳	古墳	古墳	
402-003 松尾横穴群	伊藤 (松尾)	古墳	古墳	古墳	古墳	約60穴。須器器
402-004 土平横穴群	井利 (土平)	古墳	古墳	古墳	古墳	
402-006 重敷の上	井利 (重敷の上)	神文	古墳地	古墳	古墳	御領式土器・石斧・石旗・有孔玉
402-007 皆下横穴群	井利 (皆下)	古墳	古墳	古墳	古墳	鉄錐・刀斧・金環・土器
402-008 鶴ノ宮	井利 (鶴ノ宮)	古墳	古墳	古墳	古墳	土師器
402-016 伊坂上の原	伊坂 (上の原)	神文・伴生	古墳地	古墳	古墳	御領式・野辺式土器
402-020 遠水	新明 (遠水)	神文	古墳地	古墳	古墳	御領式・須器
402-023 古西	新明 (新経)	神文	古墳地	古墳	古墳	神型文
402-024 朝山古墳	新経 (朝山)	神文	古墳	古墳	古墳	円錐・椭形石棺
402-028 鮎屋原	須坂 (東原)	神文	古墳	古墳	古墳	
402-039 木ノ原A	井利 (木ノ原)	伴生	古墳	古墳	古墳	
402-040 古間下	小原 (古間下)	古墳	古墳	古墳	古墳	三万田式・黒川式・伴生式

熊本県(43) 210栗原市 401七城町 406西水町 402祖志村

第2表 東鶴遺跡周辺遺跡一覧表

第3章 調査成果

1. 発掘調査概要

遺跡名 東鶴遺跡

事業名 県道二重峠菊池線甲県道路改良事業

所在地 菊池市下河原字東鶴

調査面積 約1,700m²

調査期間 平成10年11月～平成11年3月

調査の概要

(1) 検出遺構と年代

遺構として検出できたのは、竪穴住居、溝及び土坑である。

竪穴住居は、調査区内に僅かにかかるものを含めて4軒検出し、出土遺物の年代から、5世紀末～6世紀前半代の古墳時代と思われ、その分布状況から、集落の一部を検出したものと思われる。地形的には北から南に張り出す丘陵部先端の微高地で、南側の河川に向けて舌状に張り出す基部近くになるため、集落の北端近くに該当すると考えられる。

特筆すべき点は、1号住居の住居の規模と、2～4号住居の良好な遺物出土状況であろう。1号住居は一辺7.2mを測り、他の住居とは格段に規模の差があり、床面直上の検出遺物の少なさからも、居住目的の住居とは、やや異なった性格の遺構の可能性も指摘できる。また、2～4号住居は、床面直上の遺物がほぼ原位置近くにあったと推定させる検出状態であった。

この時期の菊池市周辺での住居遺構の検出例は少なく、貴重な発見となった。

また、10基の土坑については、年代や性格を推定できる検出状況ではなく、1本の溝も同様である。

(2) 検出包含層と年代

遺跡の基本層序は、Ⅰ層の表土・耕作土（水田層）、Ⅱ層（Ⅱa層-暗黒褐色土・Ⅱb層-黒褐色土）、Ⅲ層の暗黄褐色土（アカホヤ火山灰二次堆積土）、Ⅳ層の暗灰褐色土からなり、Ⅱ～Ⅳ層が遺物包含層である。

Ⅱa層は、調査区全域に残存し、主に古墳時代から中世までの遺物を検出している。

Ⅱb層も、調査区全域に分布し、主に縄文時代後期から古墳時代までの遺物を検出している。

Ⅲ・Ⅳ層については、部分的に北側からの大量の礫の流れ込みの影響で、掘り下げ困難な箇所があつたため、調査区の東側と中央部を中心に調査を行った。

Ⅲ層は、縄文時代晩期の遺物包含層である。

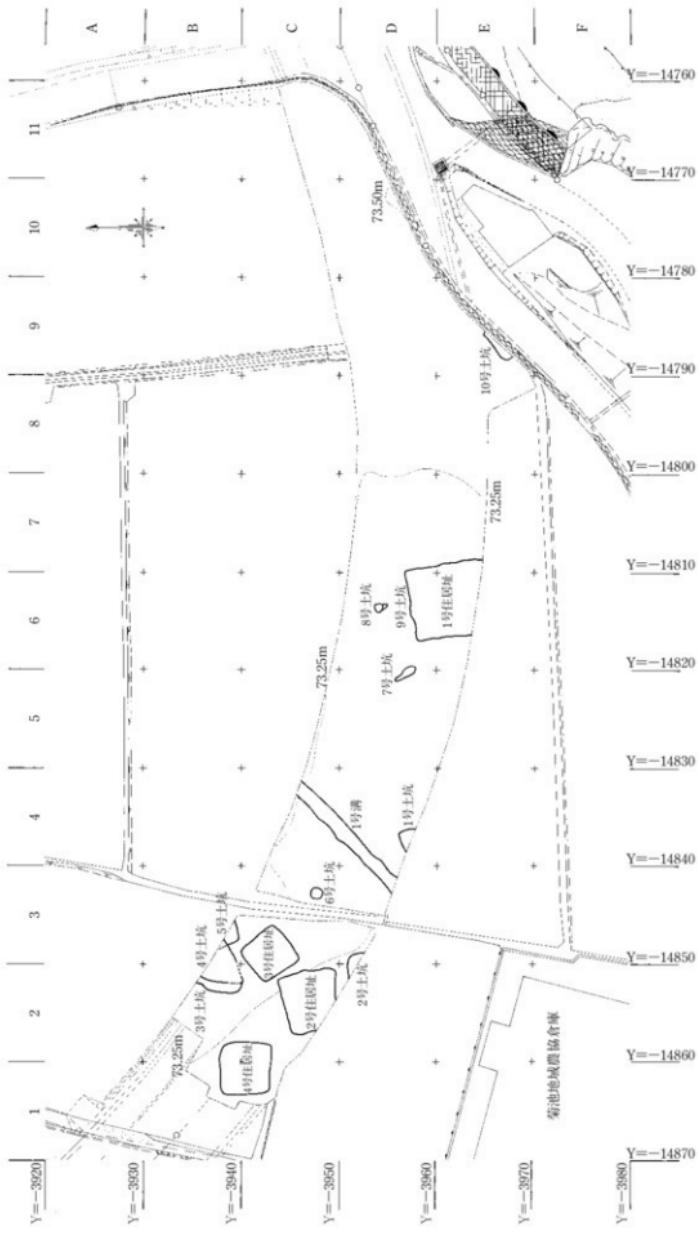
Ⅳ層は、縄文時代早期の遺物包含層で、土器片、石器類を多量に検出している。

Ⅲ・Ⅳ層に伴う、縄文時代の明確な遺構は検出されなかった。

また、Ⅳ層下の無遺物層は、地点により異なり、礫層の部分、砂層の部分、褐色砂質土の部分を確認している。

座標標数値は日本測地系による

第2図 東鶴遺跡遺構配置図(S:1/500)



2. 古墳時代

遺構の検出は、基本層序のⅢ層面で行っている。調査区内の等高線は、Ⅲ層上面の地形である。尚、遺構・遺物については観察表に詳細を掲載している。

住居址は、4軒検出した。

1号住居址は、調査区中央に位置する方形の大型住居である。埋土は1～4層にかけて土色が暗褐色から黒褐色に変化していき、1～3層は炭化物・焼土粒子を含んでいる。2・4層はしまりに欠けている。5層は暗黄褐色のⅢ層崩壊土である。6・7層は硬化層で、しまりの違いで分層している。遺物は土師器片が出土している。完形出土ではなく破片であるが、床面直上の遺物を遺構平面図上に表示している。遺物No.7は比較的住居東側に集中して出土している。遺物No.4は埋土中の土器片を一括で取り上げたものである為、遺構平面図上には出ない。1号住居址は、調査区外南側に遺構が延長しており柱穴数は確定しない。遺物の出土状態からも生活居住空間としての性格を認識しがた。

2～4号住居址は、調査区西側に位置する方形の住居であり、遺物の残りも良好で硬化面もはっきりしている。生活居住空間として見ることができる。

2号住居址の埋土は1～4層が黒褐色土で、1層は炭化物・焼土粒子を多く含む。2・4層はやや粘性を帯びている。3層はしまりに欠けた土層で、5層は暗黄褐色のⅢ層崩壊土。6層は硬化層、7層は暗黒褐色と黄褐色の混土層である。遺物は土師器が出土しており、床面直上から出土した5点を図示している。柱穴数は4基、がは検出できなかった。

3号住居址の埋土は1～4層が黒褐色土で、炭化物・焼土を粒子状に含む。土色は2・4層が若干暗い。1層は小石を多く含み、3層はしまりがある。4層は白色の粘土粒をブロック状に含んでいる。5層は暗黄褐色のⅢ層崩壊土、6層は硬化層である。この3号住居址は中央部に炉を検出しており、炉の埋土は上層ほど焼土粒を多量に含んでいる。分層は焼土粒の量で分けている。遺物は、床面直上から土師器片の残りが良好な状態で出土した。8点図示しているが、遺構平面図上にその番号を記している。しかし、遺物No.6は埋土中の土器片を一括で取り上げたものである。柱穴数は4基、炉付きの住居である。

4号住居址の埋土は1～5層が黒褐色土であるが、3・5層が若干明るい。1・2層はしまりがあり、1層は小石を多く含む。2・4層は炭化物・焼土粒を少量含み、3層は含まない。また4・5層は土質がさらさらとしている。6層はしまりに欠けた暗黄褐色土層、7層はⅢ層崩壊土、8層は硬化層、そして9層の暗褐色土が全体的に薄く広がっている。遺物は土師器の壺・坪・甕が、床面直上にほぼ原位置を保った状態で出土している。遺物No.3については埋土中の土器片を一括で取り上げたものである。また、この住居址では、住居址中央からやや北側によった床面に、21点の鍬（石鉗）が散乱して出土している。明確な加工痕はないが、自然石でも道具としての機能を考えることができることから、ここでは鍬具として5点図示している。住居址の柱穴数は6基、がは検出できなかった。

土坑は10基、溝は1本検出した。年代や性格を推定できる検出状況ではなかった。

1・2号土坑については遺物の確認が得られない、また床硬化面が未検出の為にここでは土坑としているが、調査区外に遺構が続いていることもあり、形態・埋土堆積状況から住居址としての可能性を見出すことができる。1号土坑の埋土は、1層、しまりのない黒褐色土。2層は粘性のある黒褐色土。白色粘土を粒子状に多く含んでいる。3層は炭化物・焼土粒子を少量含む暗黒褐色土。4層は堅くしまりのある黄土ブロックを含む暗褐色土。5層はⅢ層崩壊土である。II b層については、土の明るさで分層したのである。2号土坑の埋土は、1層が疊を含む黒褐色土。2層は炭化物・焼土を粒子状に少量含む暗褐色土。3層は炭化物・焼土粒子を少量含む黒褐色土で、ややしまっている。4・5層は炭化物をブロック状に含む黒褐色土であるが、4層の方がよりしまっている。6層はⅢ層崩壊土。

次に3・4・5号土坑であるが、調査区外北側へ遺構が続いている為、形態はよくわからないが、一部床面に硬化部分が、確認された。埋土は1～6層は3・4号土坑の埋土、7～11層が5号土坑の埋土である。1層はしまりのある暗褐色土。炭化物粒子・小礫を少し含む。2層は炭化物・焼土粒子を少量含む黒褐色土。3層、しまりのある暗褐色土。小礫を少し含む。4層、堅くしまりがあり、ブロック状に硬化した部分を含む暗褐色土。5層、黄褐色土をブロック状に少量含む黒褐色土。6層は炭化物・焼土粒子を少量含むしまりのある黒褐色土である。5号土坑の埋土は、9層がしまりがあるが、他の層はしまりに欠ける。炭化物粒子は9・11層では含まない。他の層は含む。11層は黄褐色土をブロックで少量含む。土色は8層が黒褐色



A L=74.0m

A'



B L=74.0m

B'

水田

IIa

IIb

L=72.9m

L=72.9m

L=72.9m

L=72.9m

a a'

b b'

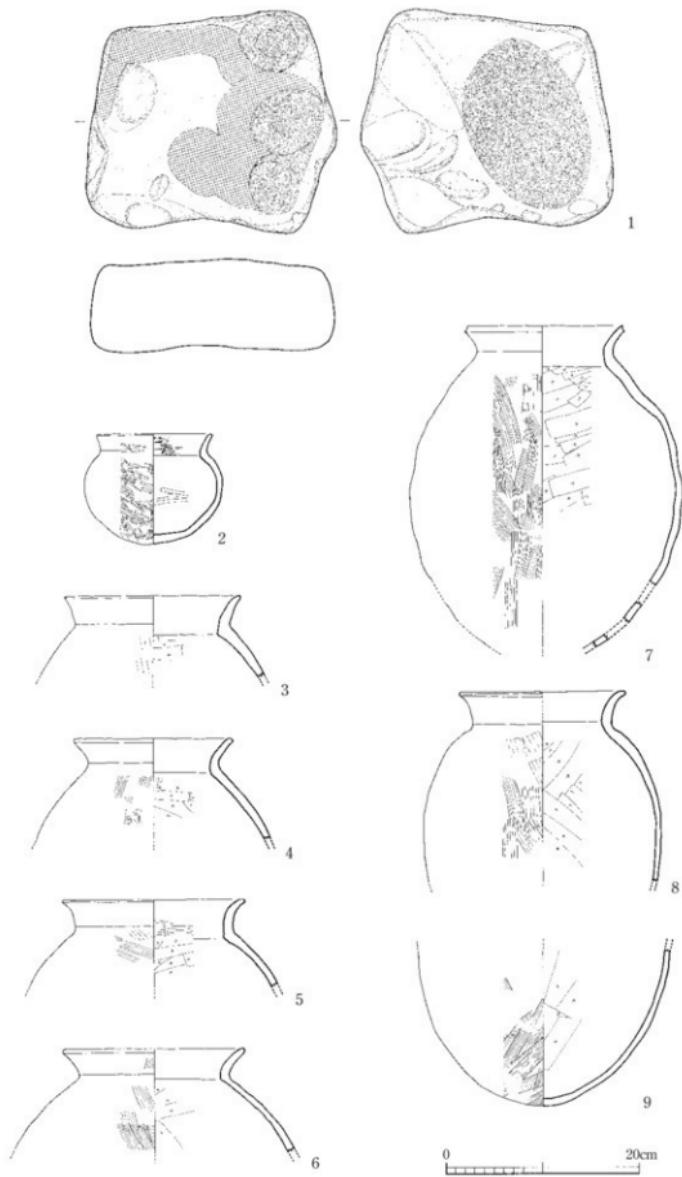
c c'

d d'

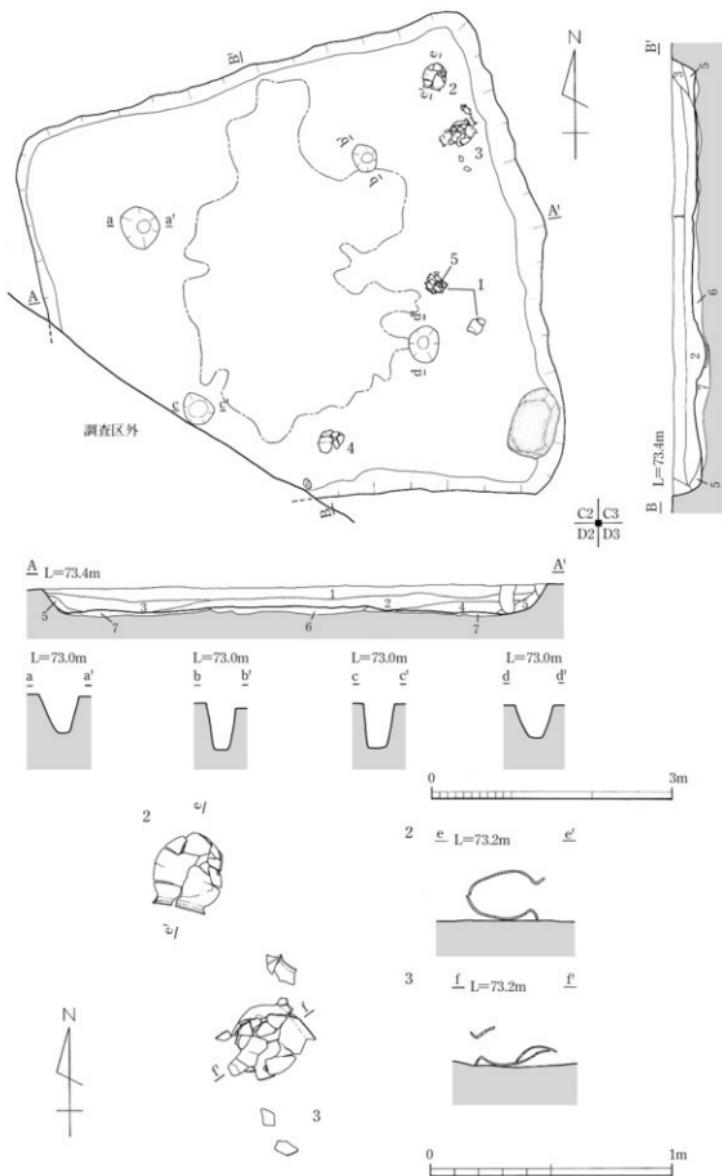
3m

0

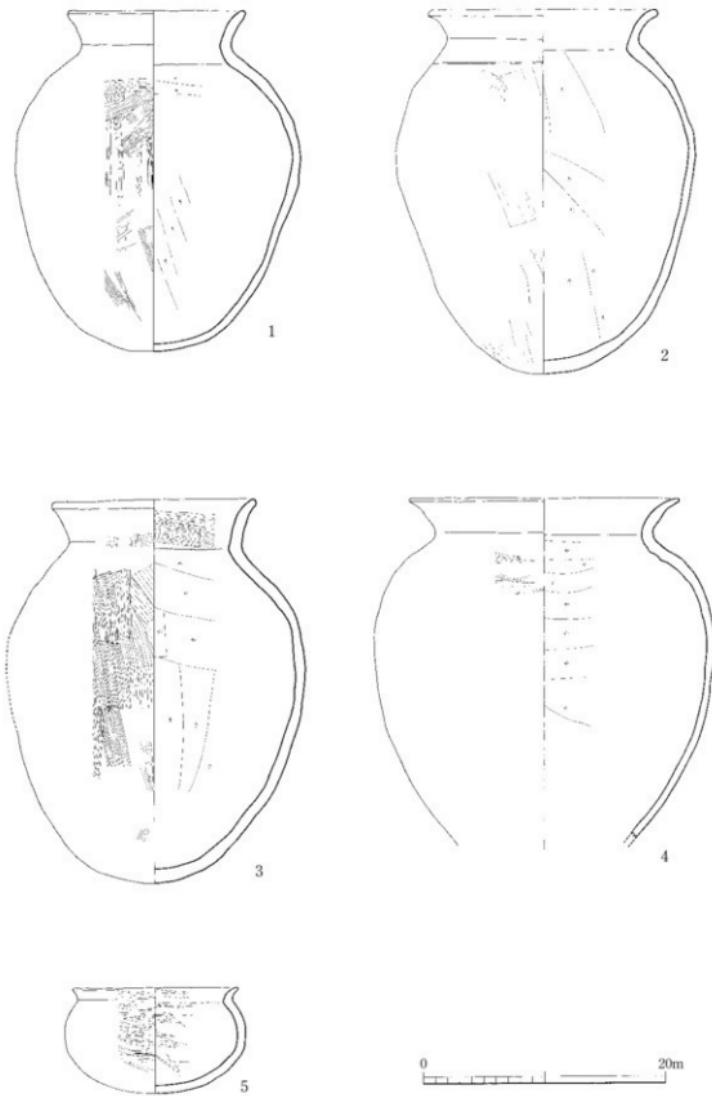
第3図 1号住居址遺構実測図 (S : 1/60)



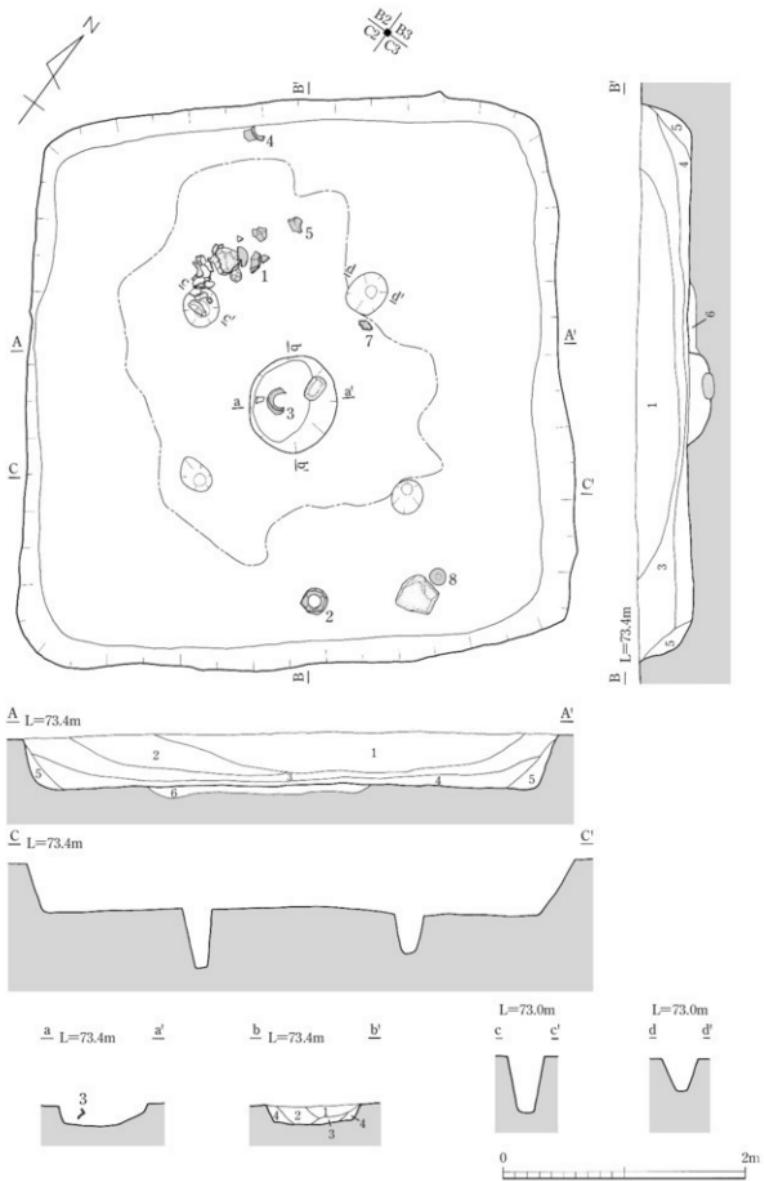
第4図 1号住居址出土遺物実測図 (S:1/5)



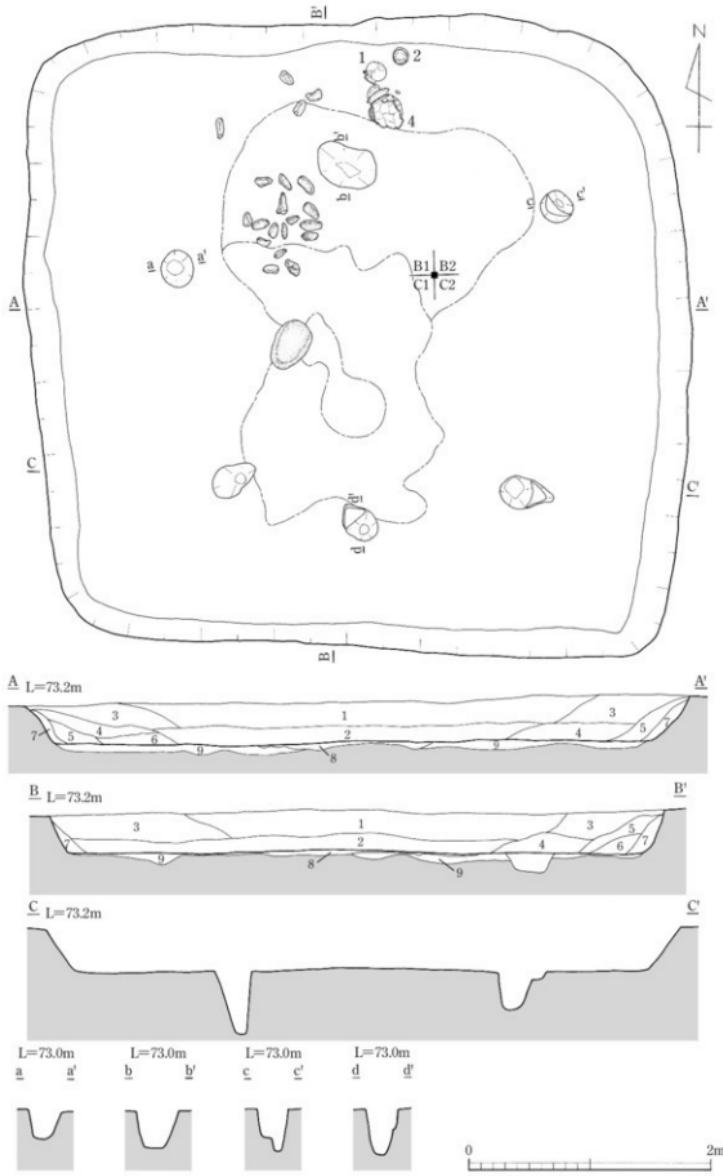
第5図 2号住居址遺構 (S:1/60) 及び遺物出土状況 (S:1/20) 実測図



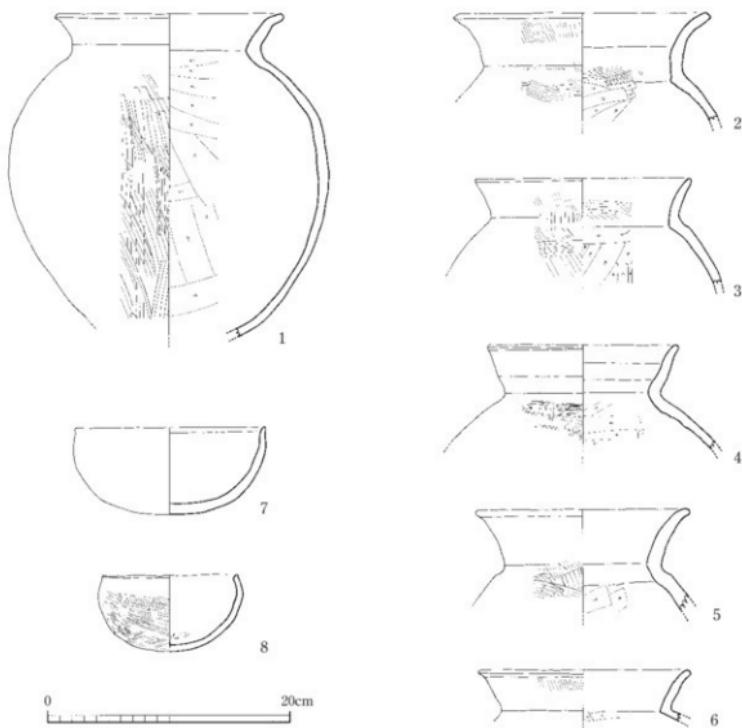
第6図 2号住居址出土遺物実測図 (S: 1/4)



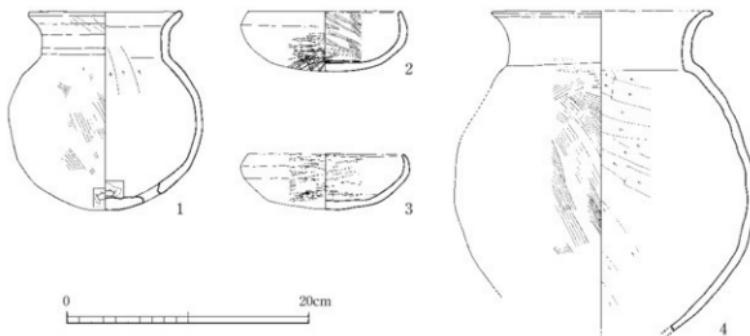
第7図 3号住居址構造実測図 (S : 1/40)



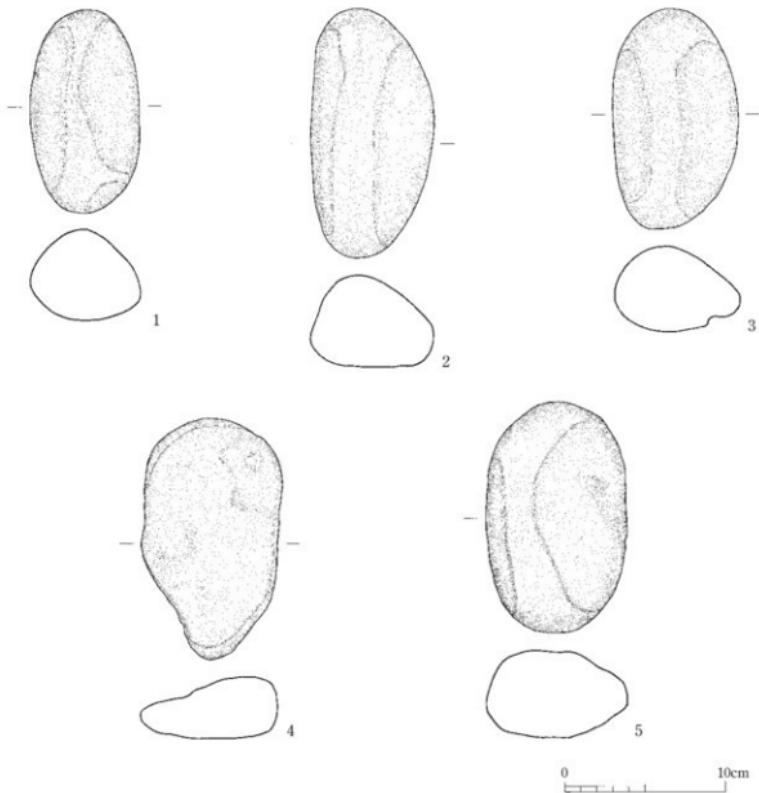
第8図 4号住居址遺構実測図図 (S : 1/40)



第9図 3号住居址出土遺物実測図 (S:1/4)



第10図 4号住居址出土遺物実測図 (S:1/4)



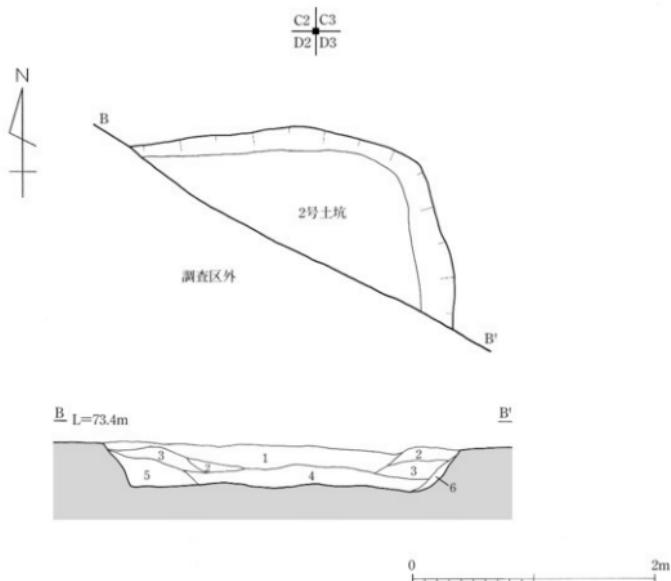
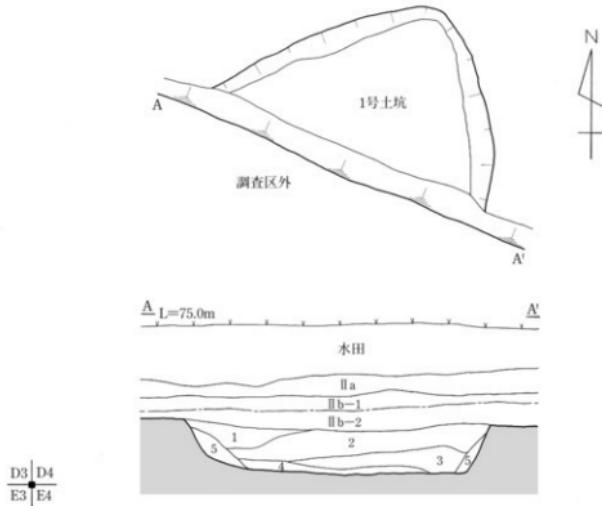
第11図 4号住居址出土石錘実測図 (S:1/3)

色土で、他は暗褐色土である。

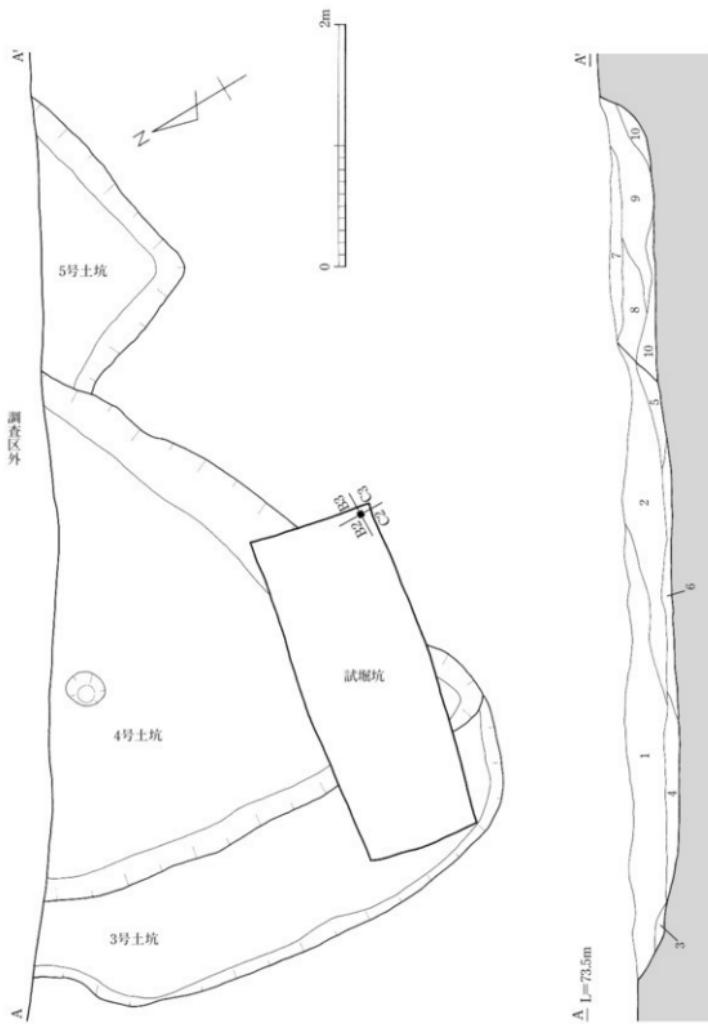
6号土坑は浅い円形の土坑で、埋土は小石を少し含むややしまりのない暗黄褐色の土層で、2層はⅢ層崩壊土。7号土坑は不定形の土坑で、1層は焼土粒、礫を含む暗茶褐色土。2層はしまりが強い暗褐色土である。土層は断面図にレベルを元に復元している為、破線となっている。8・9号土坑は2基が切り合った土坑である。埋土は1層が炭化物・焼土粒子を含むしまりのある黒褐色土。2層はそれらを含まないややしまりの欠けた黒褐色土。3層はⅢ層崩壊土。4層は炭化物・焼土を含まない堅くしまりのある暗褐色土で、5層はしまりに欠けた軟らかい暗褐色土である。10号土坑は時期を示す遺物が無く、硬化面も無い為、住居の決定はできないが、遺構が調査区外南側へ続いている為その可能性が無いではない。埋土は1層がしまりのあるやや砂質の黒褐色土、2・3層はⅢ層の崩壊土であるが、3層の方がよりしまりがある。

1号溝は調査区中央より西側を南北に貫く。埋土は暗褐色土であるが、1層は粘質の土を含み、2層が小石を少し含む。また、さらさらとしている。3層は黒色土混じりの暗褐色土である。

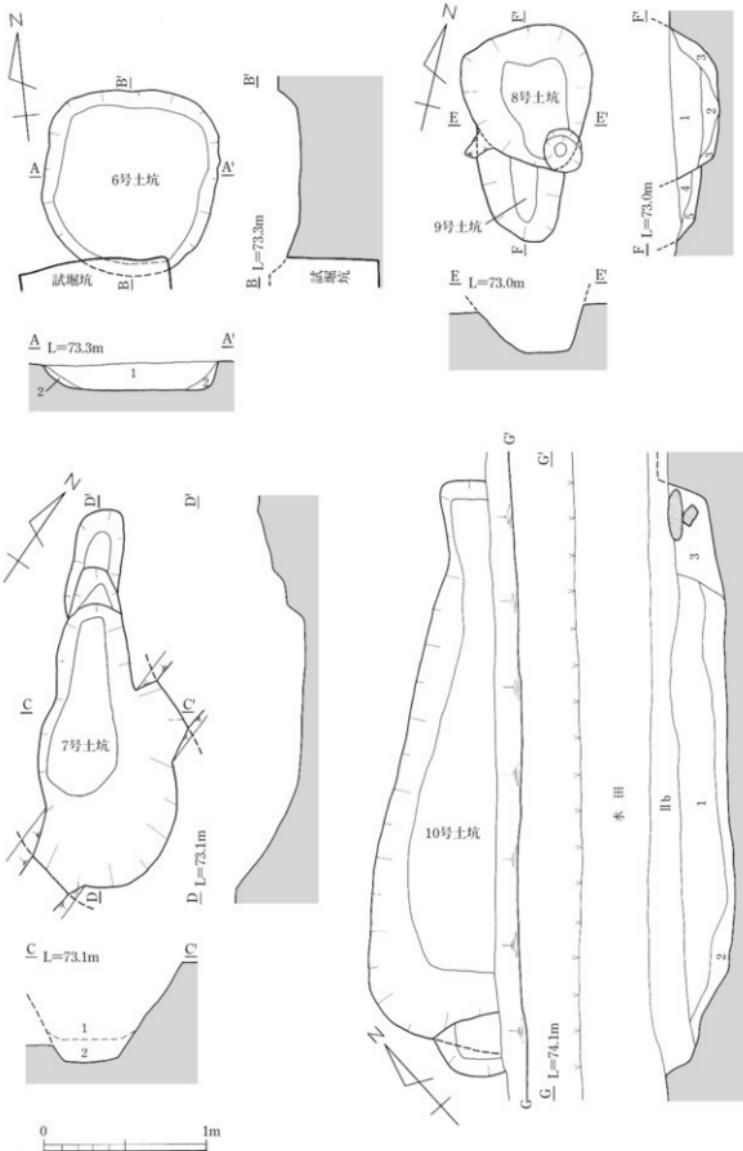
参考文献 渡辺 誠「編み物用錘具としての自然石の研究」名古屋大学文学部研究論集 1981年



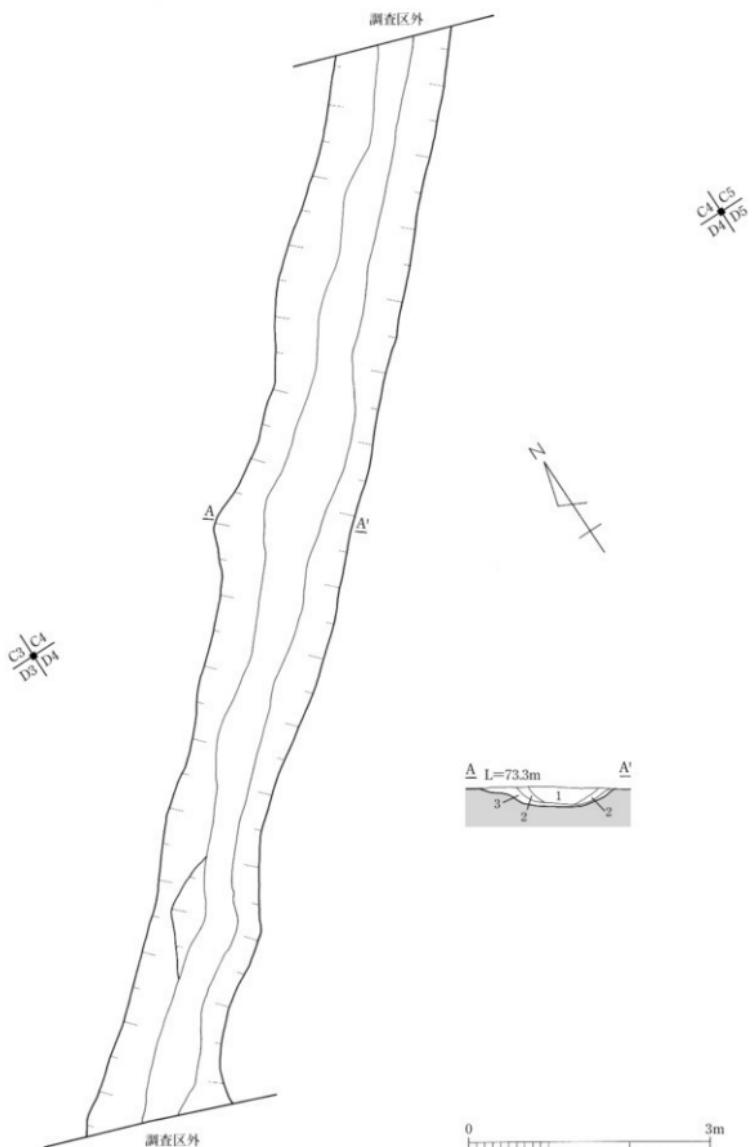
第12図 1・2号土坑遺構実測図 (S: 1/40)



第13図 3～5号土坑遺構実測図 (S : 1/40)



第14図 6~10号土坑遺構実測図 (S:1/30)



第15図 1号溝構造実測図 (S:1/60)

3. 繩文時代

(1) 包含層出土土器

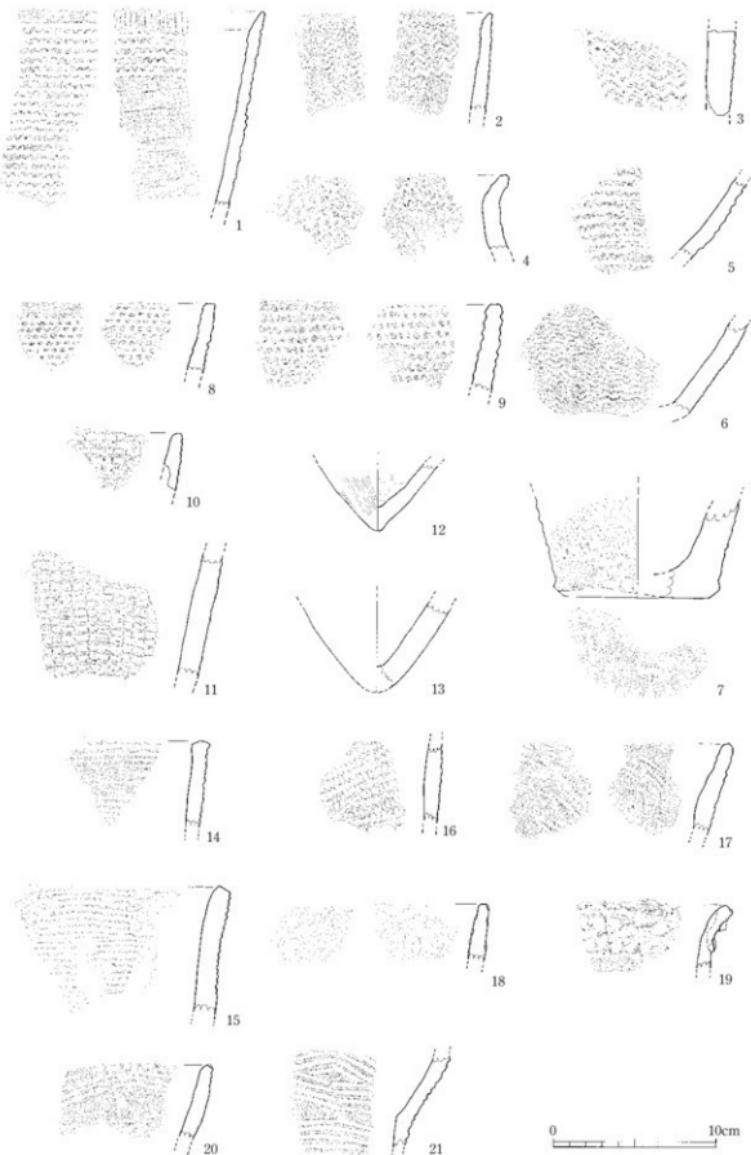
第16図1～7は外器面及び内器面に山形押型文を施した土器片である。1・2・4は口縁部片で、端部が僅かに外反するのが1・2、強く外反するのが4である。5・6は底部付近の胴部片である。1の口縁端部内器面には原体条痕がある。7は平底の底部片で、上げ底気味である。8・9は楕円押型文を内外器面に施した口縁部片である。10・11は格子目押型文を施した土器片で、10は口縁部、11は胴部である。12・13は尖底の底部片で、内器面には指おさえ痕がある。14・15は口縁部片で、外器面に条痕がある。16・17は内器面及び外器面に繩文がある土器片で、17は外反する口縁部片である。18は内外器面に条体压痕をもつ口縁部片である。19は外器面に帯状の突帶を貼り付けた口縁部片である。突帶には刺突文が施される。20・21は横方向の沈線文を外器面にもつ土器片で、20は口縁部片、21は「く」の字形に屈曲した頭部片である。

第17図22は口縁部片で、外器面に横方向の細い突帶があり、内器面に斜方向の条痕がある。23は外器面に斜方向の平行沈線文、内器面に条痕をもつ胴部片である。24は口縁部片で、外器面に横位の平行沈線文と円弧沈線文とを組み合わせている。内器面には口縁部直下に刺突文と横位の平行沈線文を帯状に施す。口唇部にも刺突文がある。25・26は口縁部片で、横位の平行沈線文と刺突文を内外器面に施す。27・28・32は沈線文・刺突文を区画された範囲に施した口縁部片である。外器面には口縁端部付近より横位の短い平行沈線文を繰り返し施し、その下方に斜方向の短沈線文を組み合わせる。内器面には平行短沈線文があり、連続突文帯が口縁端部に沿うのが27・28、口唇部にあるのが32である。29は横方向の平行沈線文を内外器面にもつ口縁部片である。30・31は外器面に斜方向の沈線文を組み合わせた胴部片である。33は平底の底部片で、外底部に圧痕が残る。34～36は内外器面に丁寧な磨研を施している。34・35は口縁部片で、「く」の字形に屈曲している。34は波状口縁である。36は口縁部と胴部の境付近の破片である。37は僅かに肥厚した箇所の外器面に横位の平行沈線文を施した口縁部片である。

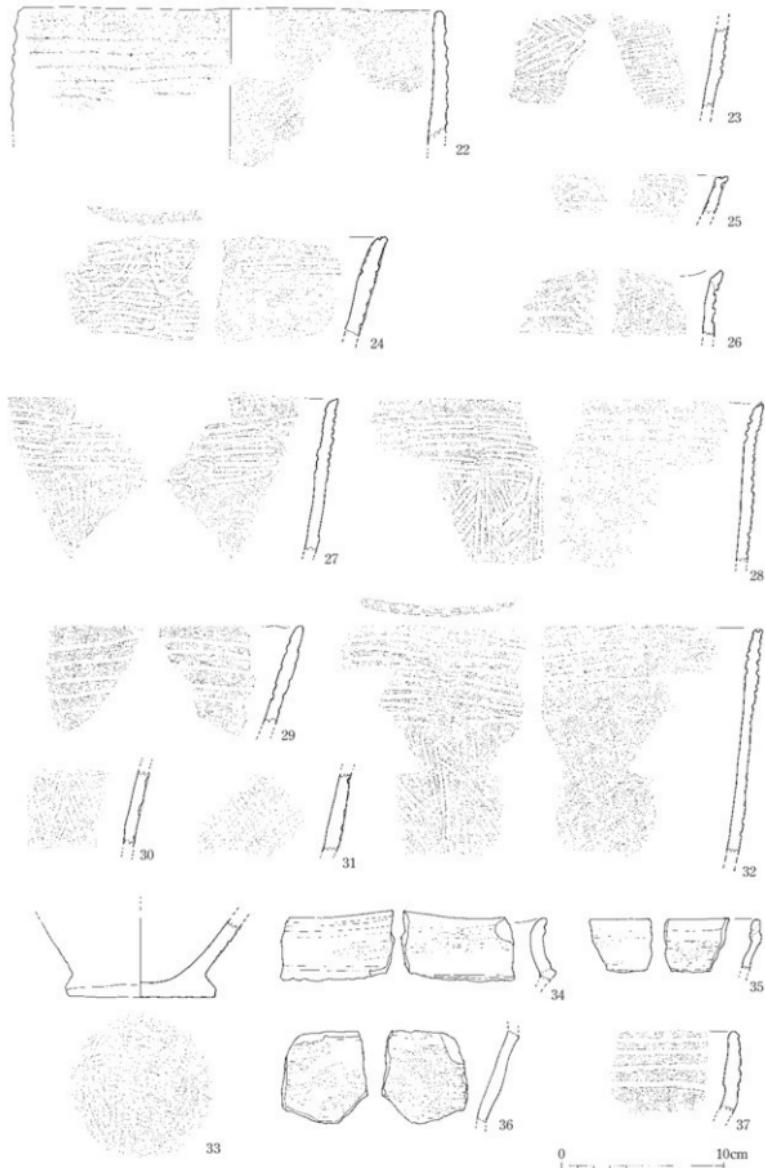
第18図38・39・43・44は内外器面に丁寧な磨研を施した口縁部片である。39・43は端部が部分的に肥厚し、波状になる。44は端部の内器面側が僅かに肥厚する。39には補修孔がある。41は「く」の字形に屈曲した胴部片、42は口縁部片である。両方とも内外器面に条痕をもつ。45・46は器壁がやや薄い口縁部片である。端部直下と「く」の字形に屈曲する変化点に突帶があり、その突帶に刻目を施す。47・49は「く」の字形に屈曲した胴部片で、屈曲点に刻目をもった突帶がある。47の刻目は大きく丸みをもつ。48・50～57は口縁部直下と「く」の字形の屈曲部に刻目突帶をもつ口縁部、胴部片で、刻目には大小がある。48・52・56・57は内器面や外器面にやや粗めの条痕を残す。51・53・54・55は条痕をナデ調整で消している。口縁部がやや外反するのが50、内傾するのが51～55、57で、51の内傾度は強い。

(2) 包含層出土石器

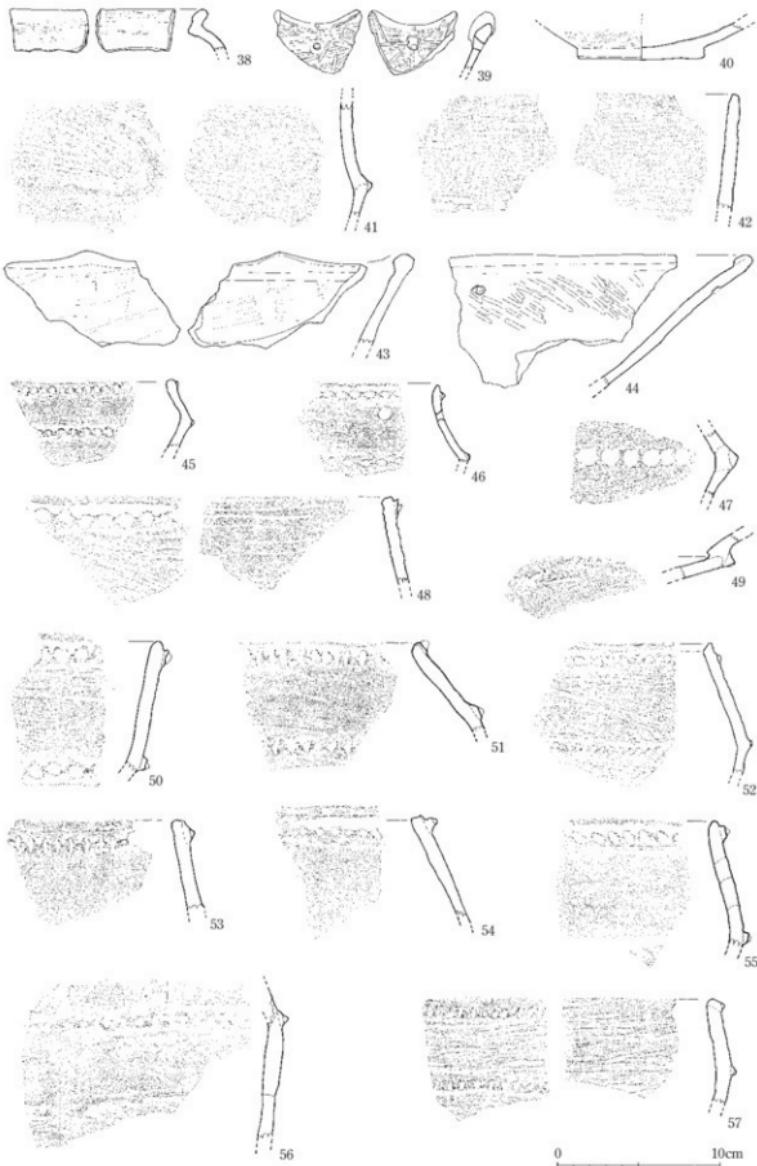
第19図1～4は石鎌である。鎌身が二等辺三角形形状を呈するのが1～3、正三角形形状を呈するのが4である。1～3は先端部を欠損している。1・2の抉部は深い。5～7は石匙である。5は横長剥片の表裏面より丁寧な加工を施している。摘みは中央よりやや端部に寄った箇所につく。6は三角形状を呈する体部の中央部に摘みがつく。7の体部は不整形形状を呈し、短めの摘みが中央部につく。8・9は打製石斧である。8は縦長剥片に縁辺部から調整加工を施している。9は縁辺部から調整加工を施しているが、片面に自然面を多く残す。10は砥石片で、磨痕が4面で観察できる。11・12は磨製石斧で、11は刃部が欠損しており、12は刃部片である。13は敲石で、表裏面のほぼ中央部に敲打痕が残る。14・15は磨石類で、14は片面に磨痕、縁辺部に敲打痕がある。15は表裏面、側面に磨痕、1側面に敲打痕がある。16は台石片である。残存面全体に磨痕、部分的に敲打痕が観察できる。



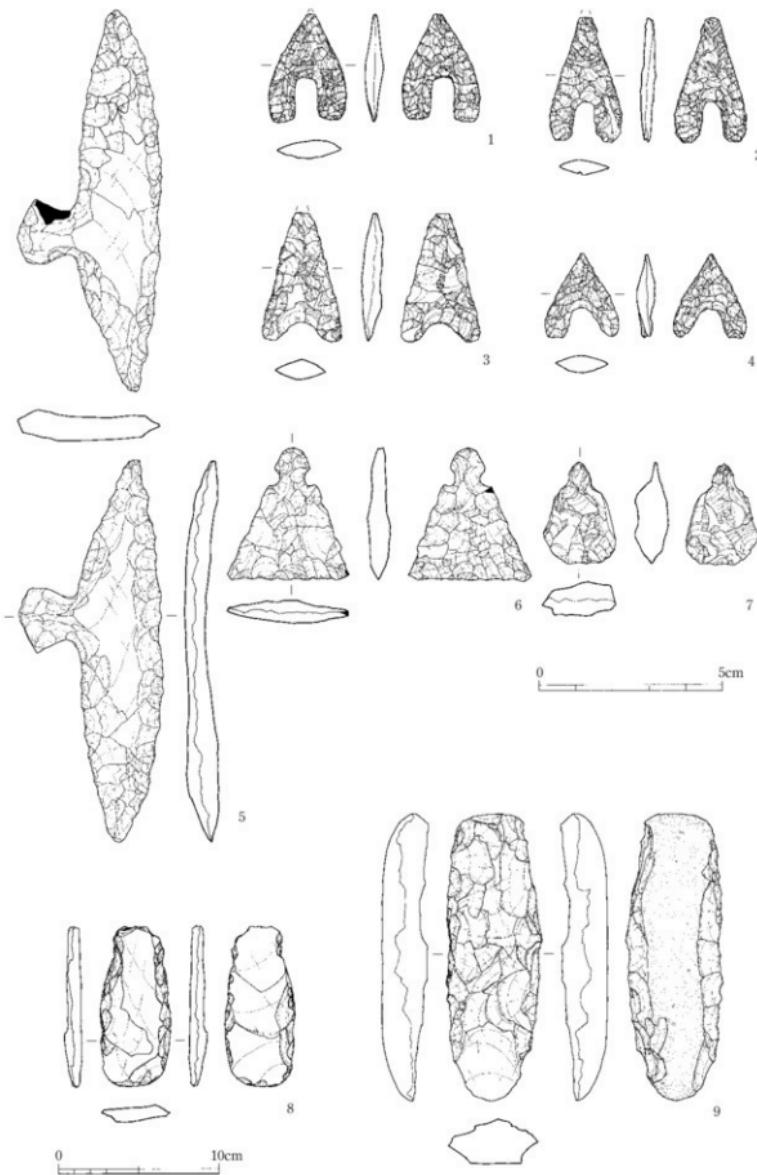
第16図 包含層出土土器実測図1



第17図 包含層出土土器実測図2



第18図 包含層出土土器実測図3



第19図 包含層出土石器実測図1



第20図 包含層出土石器実測図2

第4章 総括

東鶴遺跡は今回の道路改良工事に伴って、新たに発見されたものであり、隣接した箇所には遺跡が存在していなかった。今回の調査を通して、様々な開発事業に対する事前調査の大切さを改めて痛感した。開発事業予定区の遺跡存在の有無を判断する一連の作業がその後の調査や文化財保護に及ぼす影響は大きい。

東鶴遺跡は、県北の主要河川である菊池川上流域の支流である河原川右岸にある。遺跡が立地するのは標高約70mの段丘上で、南側に向けて開けている。集落を形成するには環境が整った所である。

調査の結果を見ると、縄文時代では遺物包含層の調査を実施した。調査担当者の所見では、遺物は調査区内のほぼ中央部に集中しており、その箇所は標高が高くなっている。遺物の出土状況、遺物の状態から判断すると、遺物は流れ込んだものと考えられる。調査区北側の一段高い地点に、遺跡本体を想定できる。

出土した縄文土器は早期・前期・晚期ものである。早期には押型文土器、手向山式土器、塞ノ神式土器、天道ヶ尾式土器、円筒系土器がある。前期のものとしては曾畠式土器、轟式土器が出土している。晚期の土器には前半と後半の2時期があり、古闕式土器、山ノ寺式土器が出土している。

検出した遺構は竪穴住居跡4軒、土坑10基、溝跡1本である。これらの中で、時期が分かるのが竪穴住居跡で、他の遺構については年代を判断する材料に乏しい。また、調査区外に伸びる土坑6基については、遺構の性格が充分につかめない状態である。

竪穴住居跡は内部から出土した土器より、古墳時代前期と考えられる。中でも、2号・3号・4号住居跡床面直上から出土した遺物群は、一括遺物としての資料価値が高い。県内のこの時期の資料が充実していない中にあって、東鶴遺跡の一括遺物は地域性・年代を考察する際の有効なものになるであろう。

また、4号竪穴住居跡から出土した砾は注目すべき遺物である。出土地点は床面上にまとまっており、1ブロックを形成している。これらの砾は渡辺誠氏が指摘しているように、編み物用錐具として考えることができる。



第21図 周辺地形図 (S: 1/12500)

第3表 遺構觀察表(古墳時代)

測定番号	遺構番号	高さ	幅	深さ	形	備考
第_3_回	1号柱	8.0cm	7.20m	0.40m	方柱	大型柱且 表面磨擦少なし 硬化面有 目測標高5-6
第_3_回	4号柱	4.0cm	4.00m	0.40m	方柱	表面の剥離少 硬化面有 目測標高5-6
第_8_回	4号柱	5.40m	5.20m	0.35m	方柱	表面の剥離少 硬化面有 目測標高5-10
第_12_回	1号柱	1.80m以上	1.80m以上	0.38m	方柱	位置の可能性有 硬化面は木板由 目測標高5-10
第_12_回	2号柱	2.30m以上	1.40m以上	0.38m	方柱	位置の可能性有 硬化面は木板由 目測標高5-20
第_12_回	3号柱	4.00m以上	1.00m以上	0.35m	方柱	位置の可能性有 硬化面は木板由 目測標高5-20
第_12_回	4号柱	4.00m以上	1.00m以上	0.35m	方柱	位置の可能性有 硬化面は木板由 目測標高5-20
第_13_回	5号柱	1.80m以上	1.40m以上	0.38m	方柱	硬化面は木板由 目測標高5-20
第_14_回	6号柱	1.10m	1.05m	0.18m	円柱	目測標高5-13
第_14_回	7号柱	2.30m	0.80m	0.35m	不完全柱	目測標高5-25
第_14_回	8号柱	0.80m	0.80m	0.28m	円柱	目測標高5-26
第_14_回	9号柱	0.70m以上	0.80m	0.14m	椭円柱	目測標高5-28
第_14_回	10号柱	1.10m	0.80m	0.10m	方柱	位置の可能性有 硬化面は木板由 目測標高5-6
第_15_回	1号梁	1.80m	—	0.28m	—	目測標高5-10

第4表 土器觀察表

住居出土土器

測定番号	測定番号	基準	文様	色	質	備考
4_2 磁	(11.6) —	11.0	横目文	白	明赤陶	石器、陶器、赤色熱粘 目測好
4_3 磁	(17.8) —	8.40	横目文、螺旋	褐	褐	石器、陶器、石器、良好
4_4 磁	(16.0) —	10.41	横目文、A字文	褐	褐赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
4_5 磁	(18.4) —	10.20	横目文、螺旋	褐	褐	石器、角閃石、赤色熱粘 目測好
4_6 磁	(18.4) —	10.71	横目文、A字文	褐	褐	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
4_7 磁	(15.8) —	13.11	横目文、螺旋	褐	明赤陶	角閃石、石器、良好
4_8 磁	(16.8) —	11.92	横目文、A字文	褐	褐	角閃石、石器、赤色熱粘 小石粒
4_9 磁	—	16.0	横目文	黄	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 良好
4_1 磁	14.2	27.8	横目文、A字文	褐	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 小石粒
4_2 磁	18.2	28.9	横目文、A字文	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
4_3 磁	16.3	31.6	横目螺旋橫目、A字文	褐	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
4_4 磁	(22.0) —	27.81	横目文、A字文	褐	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
4_5 磁	13.4	8.6	丁字彫刻	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_1 磁	18.3	28.5	横目文、A字文	褐	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_2 磁	20.3	18.6	横目文、螺旋橫目、A字文	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_3 磁	17.5	—	横目文、螺旋橫目	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_4 磁	15.4	18.6	横目文、螺旋橫目	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_5 磁	(17.2) —	10.5	横目文	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_6 磁	17.1	14.2	横目螺旋橫目	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_7 磁	15.4	—	横目文	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
9_8 磁	11.0	6.3	横目螺旋橫目、A字文	白	明赤陶	角閃石、石器、赤色熱粘 目測好
10_1 磁	12.4	16.2	横目文、A字文、S字文	白	明赤陶	横目文、良好
10_2 磁	12.6	4.9	横目文、螺旋	白	明赤陶	横目文、良好
10_3 磁	12.7	4.6	S字文	白	明赤陶	横目文、良好
10_4 磁	17.8	28.0	横目文、螺旋	白	明赤陶	横目文、良好

含土層出土土器

測定番号	測定番号	基準	文様	色	質	備考
1_1 磁	(12.1) —	12.1	横目文、螺旋	白	明赤陶	石器、白色熱粘 目測好
2_2 磁	—	(6.3)	横目文、螺旋	白	明赤陶	石器、良好
3_3 磁	—	(5.0)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
4_4 磁	—	(4.6)	横目文、螺旋	白	明赤陶	石器、良好
5_5 磁	—	(3.2)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
6_6 磁	—	(5.6)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
7_7 磁	—	10.2	横目文	白	明赤陶	石器、良好
8_8 磁	—	(4.3)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
9_9 磁	—	(3.4)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
10_10 磁	—	(3.5)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
11_11 磁	—	(7.8)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
12_12 磁	—	(4.2)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
13_13 磁	—	(4.9)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
14_14 磁	—	(3.2)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
15_15 磁	—	(7.8)	横目文、A字文	白	明赤陶	石器、良好
16_16 磁	—	(5.0)	横目文	白	明赤陶	石器、良好
17_17 磁	—	(5.7)	横目螺旋圓文(1周)	白	明赤陶	石器、白色熱粘 目測好
18_18 磁	—	(5.7)	横目螺旋圓文(1周)	白	明赤陶	石器、白色熱粘 目測好
19_19 磁	—	(3.7)	横目螺旋圓文	白	明赤陶	石器、良好
20_20 磁	—	(3.8)	横目螺旋圓文	白	明赤陶	石器、良好

番号	器種	目次番号(年)	調査・文様		測量		計土	焼成	出土	備考	
			内面	外面	内面	外面					
16-21	深鉢	12年 表記	品名	-	-	(4.5) H	横方向の波状文	内:灰褐色	赤閃石、石英	直斜 外面に口付裏	
17-22	深鉢	25.4	-	(8.3)	鉢の外側	鉢の外側	内:波状文	内:灰褐色	赤閃石、石英、長石	直斜 外面に口付裏	
17-23	深鉢	-	-	(5.2)	手縫	手縫、平行手縫文、文様	内:灰褐色	赤閃石、石英	直斜 外面に口付裏		
17-24	深鉢	-	-	(6.3)	直縫文、横縫文	横縫文	内:灰褐色	赤閃石、石英、長石	直斜 1号位底土	外面に口付裏	
17-25	深鉢	-	-	(2.4)	斜縫文、横縫文波状	斜縫文	内:灰褐色	赤閃石、石英、長石	直斜 外付裏	外付裏	
17-26	深鉢	-	-	(4.2)	直縫文、横縫文	横縫文	内:灰褐色	赤閃石	直斜 外付裏	外付裏	
17-27	深鉢	-	-	(9.6)	直縫文、横縫文波状	直縫文	内:灰褐色	赤閃石	直斜 外付裏	外付裏	
17-28	深鉢	-	-	(10.0)	直縫文、横縫文	横縫文	内:灰褐色	赤閃石、長石	直斜 1号位底土	外面に口付裏	
17-29	深鉢	-	-	(6.1)	横方向の波状文、斜縫文	横方向の波状文	内:灰褐色	赤閃石、石英、長石、赤色斜柱粒	直斜 外付裏	外面に口付裏	
17-30	深鉢	-	-	(4.8)	横縫文	フタハ字彌字模様	横	赤閃石、石英、長石、赤色斜柱粒、小石粒	直斜 外付裏	外付裏	
17-31	深鉢	-	-	(5.0)	横縫文	斜縫文、斜縫文波状	内:灰褐色	赤閃石、石英、輝石、長石	直斜 外付裏	外付裏	
17-32	深鉢	-	-	(9.1)	直縫文、波状文	直縫文	内:灰褐色	赤閃石、石英	直斜 外付裏	外付裏	
17-33	深鉢	-	-	(8.8)	(4.5) 手縫	手縫	内:灰褐色	赤閃石	直斜 外付裏	外付裏	
17-34	浅鉢	-	-	(4.4)	横方向の波状	横方向の波状	黑	赤閃石、石英、輝石	直斜 直斜	波状口縫 外付裏赤色斜柱粒	
17-35	浅鉢	-	-	(3.2)	横方向の波状	横方向の波状	内:灰褐色	赤閃石、白色斜柱粒	直斜 外付裏	外付裏各斜柱粒が有る	
17-36	深鉢	-	-	(5.6)	横方向の波状	フタハ字	黒	赤閃石、白色斜柱粒	直斜 外付裏	外付裏各斜柱粒が有る	
17-37	深鉢	-	-	(5.1)	横縫文	フタハ字横方向波状	横	赤閃石、石英、輝石、赤色斜柱粒	直斜 直斜	外付裏	
17-38	浅鉢	-	-	(3.9)	直縫文	直縫文	黑	赤閃石、石英、輝石、斜柱	直斜 直斜	直斜口縫 外付裏赤色斜柱粒	
18-40	鉢	-	-	(7.7)	丁字縫文(?)	丁字縫文	直	赤色斜柱粒	直斜 直斜	リザード模様 リザード模様、乳頭部の穿孔丸穴	
18-41	深鉢	-	-	(7.5)	横方向の波状	手縫文	内:灰褐色	赤色斜柱粒	直斜 直斜	外付裏	
18-42	深鉢	-	-	(7.35)	横方向の波状(?)	横方向の波状(?)	内:灰褐色	赤閃石、石英、長石	直斜 外付裏	外付裏	
18-43	浅鉢	-	-	(5.9)	横方向の波状	横方向の波状	直	直	直斜 直斜	外付裏	
18-44	浅鉢	-	-	(8.2)	横方向の波状(?)	横方向の波状(?)	内:灰褐色	赤閃石、輝石	直斜 直斜	波状口縫 全体に口付裏	
18-45	鉢	-	-	(4.2)	横縫文	横縫文	内:灰褐色	赤閃石、白石斜柱	直斜 直斜	直斜	
18-46	鉢	-	-	(4.8)	手縫文(?)	手縫文	直	赤閃石、石英、長石	直斜 直斜	口縫付柱に施泥後の丸孔	
18-47	鉢	-	-	(4.2)	手縫文	手縫文	直	赤閃石、輝石、斜柱	直斜 直斜	外付裏	
18-48	鉢	-	-	(6.1)	手縫文	手縫文	内:灰褐色	赤閃石	直斜 直斜	外付裏	
18-49	浅鉢	-	-	(2.5)	横縫文	横縫文	直	直	直斜 直斜	外付裏	
18-50	鉢	-	-	(3.05)	横縫文	横縫文	浅灰色	赤閃石、石英、斜柱	直斜 2号位底土	直斜口縫 全体に口付裏	
18-51	鉢	-	-	(6.3)	横縫文	横縫文	直	直	直斜 直斜	直斜	
18-52	鉢	-	-	(9.3)	横縫文	横縫文	直	赤閃石、石英、斜柱	直斜 直斜	外付裏	
18-53	鉢	-	-	(5.6)	手縫文(?)	手縫文	直	赤閃石、石英、長石	直斜 直斜	口縫付柱に施泥後の丸孔	
18-54	鉢	-	-	(7.3)	丁字縫文(?)	丁字縫文(?)	直	直	直斜 直斜	外付裏	
18-55	鉢	-	-	(7.8)	H	H	直	直	直斜 直斜	外付裏	
18-56	鉢	-	-	(9.4)	H	H	直	直	直斜 直斜	内:外に陶瓦面(?)	
18-57	鉢	-	-	(6.6)	横方向の波状	横方向の波状	地表面	赤閃石、石英、斜柱	直斜 直斜	直斜	

★口縫模様 () 内の数値は保存量記入 ★ 目録の() 内の数値は保存量記入

第5表 石器観察表

住居出土土器

番号	器種	石材	計測量			計土	焼成	出土	備考
			全长(cm)	中幅(cm)	厚さ(cm)				
4-1	台石	研磨	22.00	25.70	5.80	990.0	1号位底土	赤閃石	
11-1	石碑	鷹化石	12.40	6.80	5.60	578.0	4号位底土	赤閃石大山岩(鷹池～同縫にかけ覆る)	
11-2	石碑	鷹化石	15.30	7.60	5.60	880.0	4号位底土	赤閃石大山岩(鷹池～同縫にかけ覆る)	
11-3	石碑	鷹化石	13.50	7.70	5.30	725.0	4号位底土	赤閃石大山岩(鷹池～同縫にかけ覆る)	
11-4	石碑	鷹化石	14.70	6.60	3.60	513.0	4号位底土	赤閃石大山岩(鷹池～同縫にかけ覆る)	
11-5	石碑	鷹化石	14.70	6.70	3.40	89.0	4号位底土	赤閃石大山岩(鷹池～同縫にかけ覆る)	

外食層出土土器

番号	器種	石材	計測量			計土	焼成	出土	備考
			全长(cm)	中幅(cm)	厚さ(cm)				
19-1	石碑	黒曜石	2.95	2.15	1.00	—	—	鷹石	
19-2	石碑	黒曜石	3.40	1.95	2.40	—	—	鷹石	
19-3	石碑	黒曜石	3.50	2.15	1.00	—	—	鷹石	
19-4	石碑	黒曜石	2.95	2.00	0.80	—	—	鷹石	
19-5	石碑	安山岩質黒曜石	3.90	10.45	5.90	23.4	2号位底土		
19-6	石碑	安山岩	3.60	3.40	5.65	5.2	直斜	鷹石	
19-7	石碑	黒曜石	2.76	1.94	0.80	4.3	直斜	鷹石	
19-8	打制石器	鷹化石	9.90	4.30	1.10	45.1	直斜		
19-9	打制石器	安山岩	17.50	5.90	2.80	370.1	4号位底土		
20-10	石碑	ソマトロ(熱水変質岩の透視)	15.80	4.50	1.70	323.4	3号位底土	大山岩質(?)	4号位底土
20-11	磨石	鷹化石	12.60	5.20	3.35	276.0	9号底土	モルタルセメント	4号位底土
20-12	磨石	鷹化石	12.70	5.20	3.35	277.0	9号底土	モルタルセメント	4号位底土
20-13	磨石	鷹化石	9.80	6.40	3.00	360.0	直斜	鷹石	4号位底土
20-14	磨石	鷹化石	7.60	7.00	4.20	293.0	直斜	鷹石	4号位底土
20-15	磨石	鷹化石	12.00	10.40	3.80	1608.0	直斜	鷹石	4号位底土
20-16	台石	鷹化石山岩	13.70	19.00	6.70	2410.0	直斜	鷹石	4号位底土

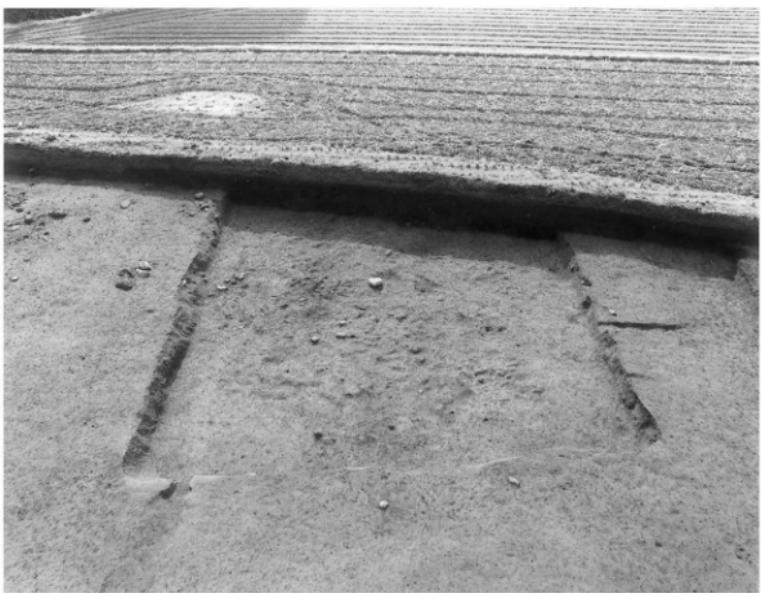
写 真 図 版



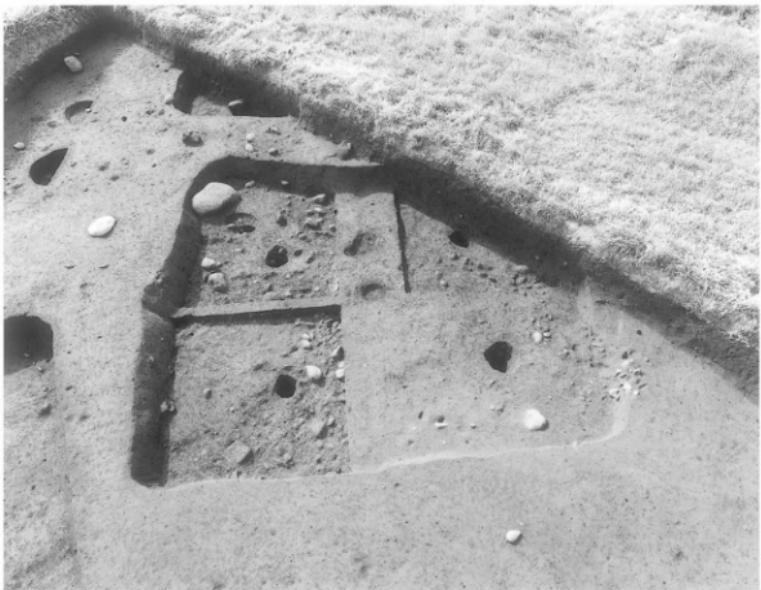
図版1 東鶴遺跡遠景



図版2 東鶴遺跡全景



図版3 1号住居址(北から)



図版4 2号住居址(北から)



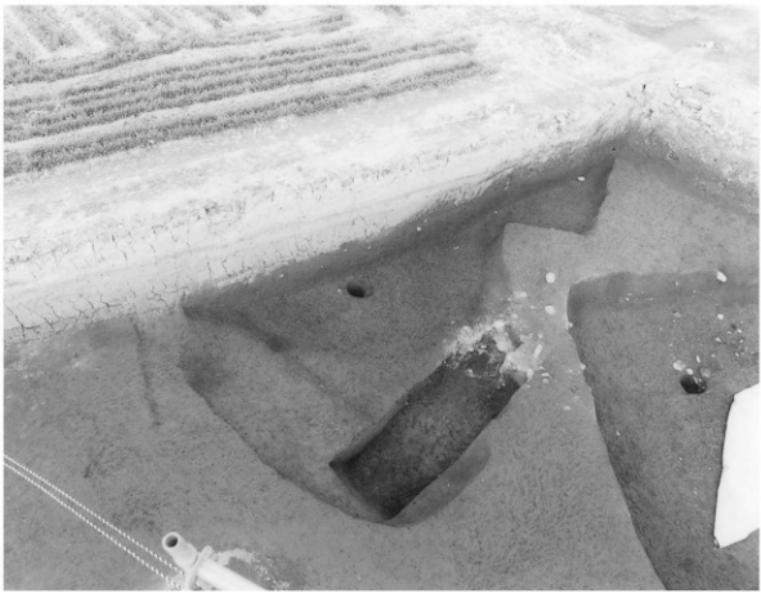
図版5 3号住居址（西から）



図版6 4号住居址（東から）



図版7 4号住居址遺物出土状況(北から)



図版8 3・4・5号土坑(南西から)



图版9 1·3·4号住居址出土遗物

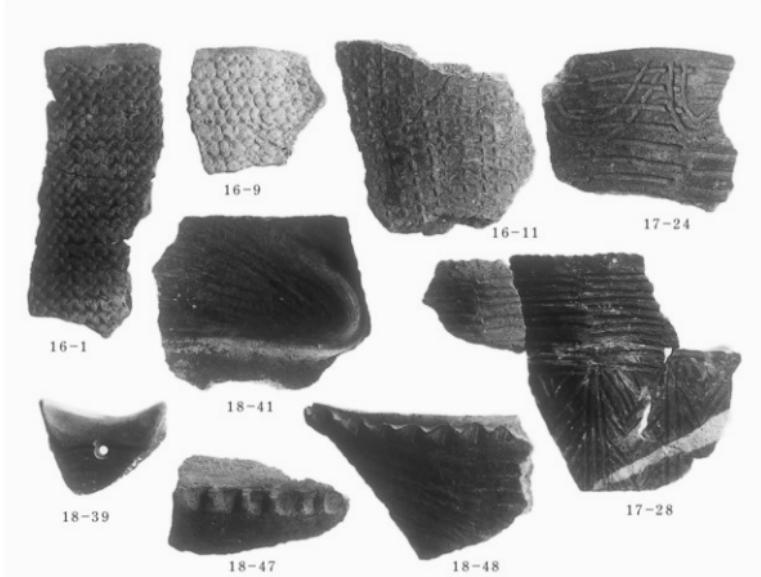


图版10 2号住居址出土遗物

4-1



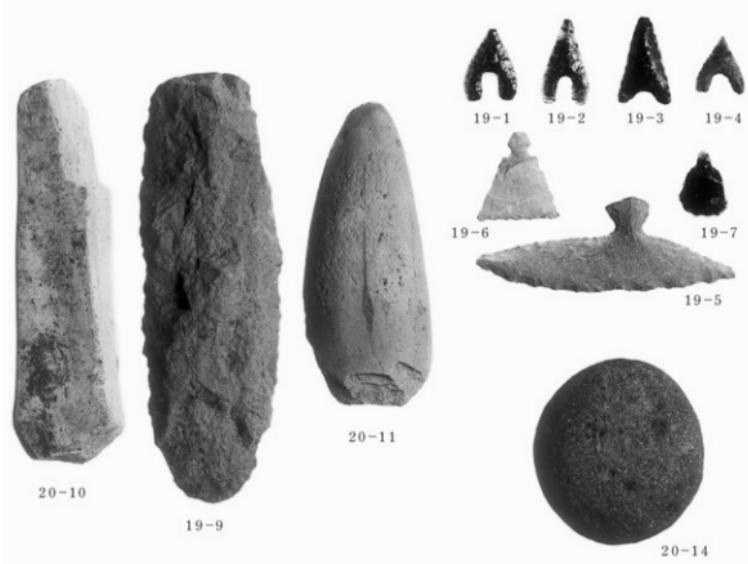
图版11 1·4号住居址出土遗物



图版12 包含层出土遗物(揭载土器)



図版13 包含層出土遺物(未掲載土器)



図版14 包含層出土遺物(掲載石器)

報告書抄録

ふりがな	ひがしつるいせき							
書名	東鶴遺跡							
副書名	県道二重峠菊池線単県道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査							
卷次								
シリーズ名	熊本県文化財調査報告							
シリーズ番号	第222集							
編著者名	西住欣一郎							
編集機関	熊本県教育委員会							
所在地	〒862-8609 熊本県水前寺6丁目18番1号							
発行年月日	西暦2004年3月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東鶴遺跡	熊本県菊池市 下河原字東鶴	市町村	遺跡番号	32度 57分 51秒	130度 50分 29秒	1998.11.23 ～ 1999.03.31	約 1,700m ²	道路改良
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東鶴遺跡	包蔵地	縄文時代 古墳時代	竪穴住居址 土坑溝	縄文土器・土師器 石器・石匙・打製 石斧・磨製石斧・ 砥石など				

あとがき

本報告書の刊行に至るまで、多くの方々に御協力いただきました。ここに記して感謝申し上げます。

久野祐介（熊本県立温古創生館） 池田朋生（熊本県立裝飾古墳館） 帆足俊文・馬場正弘（熊本県文化課）
森愛華・隈田章代・杉井涼子・梅田亞耶・塙本博子・土村孝子・測上慶子・宮田日文・吉田律子・瀬口綱代・
富田知子・荒牧陽子・上野栄子・原田春子・興梠富貴子・田中洋子・古庄美伊子・山切律子・宇野玲子・村
山紀子・米倉五月・平川早苗・園田智子・上田まゆみ・清水千鶴・川井田久子・貞苅美津子・村田百合子（熊
本県文化財資料室） 横住克（熊本大学大学院）

熊本県埋蔵文化財調査報告 第222集

東鶴遺跡

発行年月日 平成16年3月31日

編集・発行 熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市水前寺6丁目18番1号
TEL. 096(381)9211

印 刷 弘栄印刷株式会社

〒862-0938 熊本市长嶺東8丁目6番1号
TEL. 096(389)5570(代)

15 教委 教文
② 006

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 222 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：東鶴遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>